

・

北軽井沢の県道を夜間に走行していると、道路脇に小さなニホンノウサギの子ウサギが姿を現しました。まだ体が小さく、耳も成獣ほど長くないことから、その年に生まれた若い個体と考えられます。撮影は7月下旬で、ちょうどニホンノウサギの繁殖期にあたり、この時期には親から独立し始めた若い個体が単独で行動するようになります。そのため、動画では親ウサギの姿は確認できませんでしたが、必ずしも親とはぐれたわけではなく、このように一頭だけにいることは珍しいことではありません。

ニホンノウサギは、アナウサギのように巣穴で群れをつくる種類ではなく、基本的に単独生活を送ります。子育ても独特で、親は昼夜を問わず子どものそばに付き添うのではなく、捕食者に見つかる危険を減らすため、夜間を中心に短時間だけ授乳に訪れます。子ウサギは生後間もなく歩けるようになり、約1か月ほどでほぼ独立するとされています。7月下旬に単独で見られたこの子ウサギも、自分の力で採食しながら生活を始めたばかりの個体だった可能性があります。

北軽井沢には森林や草地が広がり、ニホンノウサギにとって暮らしやすい環境が残されています。しかし、若い個体は行動経験が浅く、県道へ出てきてしまうこともあります。特に夜間は車の前照灯に驚いて動きが止まることもあり、ロードキル（交通事故）の危険が高まります。夏の高原道路を走る際には、シカやキツネだけでなく、このような小さなニホンノウサギが突然現れることもあるため、速度を控えめにして周囲に注意を払うことが、野生動物との共存につながる大切な心掛けといえるでしょう。

(2026 年 7 月下旬／北軽井沢)

